

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

フィリピン留学を通して学び得たことと今後への活用

山梨県立大学
国際政策学部国際コミュニケーション学科3年
加賀美 里奈

1. はじめに (留学決断への経緯)

私の留学への憧れは、高校生の頃にオーストラリアからの姉妹都市交流生が来日したことがきっかけです。偶然、オーストラリア人の生徒と隣の席になるも、聞きたいこと、紹介したいことがたくさんあるのに何一つ満足に伝えられなかったことがとても悔しかったのを鮮明に覚えています。振り返れば、「もっと自分の言葉で伝えられたら。」というその体験が、私の留学への思いの原点でした。

「大学に入学したら、絶対に留学をしてみたい。」そう思っていました。新鮮な授業の中でも最も印象的だったのは、ゼミ活動の一貫で行った山梨県森林環境総務課からの受託事業であるモニターツアーです。アメリカや韓国などの外国人学生を対象に、山梨県の『水』資源を活かしたツアーを組み、実際に自分たちで催行するという体験は本当に貴重なものでした。このとき再び、英語を使って自分の知る山梨の良さを紹介することへの喜びと、思うようにコミュニケーションが出来ず、もっと知ってもらいたいことがあるのに言葉が通じないことへの歯がゆさを痛感しました。

この4度のツアーが後押しとなり、私の留学への思いは強くなる一方でした。英語を習得し、山梨の観光と世界を繋ぐことが出来る架け橋のような存在になればと思い描くようになり、本当に夢を実現するため、まずは本事業の奨学金制度に挑戦することを決めました。家庭の状況もあり、この奨学金がなければ私は留学を諦めざるを得なかったため、思いを受け取り、採用してくださった本事業に携わる方々全てに、感謝の気持ちでいっぱいです。宝物となる経験をするチャンスを与えてくださり、本当にありがとうございました。

私の留学での最終的なゴールは、世界的に有名な観光地であるセブ島の国際空港とホテルでインターンシップをすることでした。様々な地域の人々が行き交う現場でのサービスや、顧客のニーズに応えた高い接客能力を習得し、帰国後にそれらを活用していくことを目標としていました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響により帰国が早まり、最大の目標であったこれらのインターンシップが出来ずに留学が終了してしまいました。非常に悔しく、どうしようもないからこ

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

そ消化しきれない思いがずっと胸に残り、もやもやしています。残念な気持ちでいっぱいではありますが、限られた時間の中で経験することができた貴重な文化や出来事について、これから紹介したいと思います。

2. 成果

2-1) Ms. CDU (Cebu Doctors University) の称号を頂いたこと

私の通っていた語学学校では、毎年10月末に Mr. & Ms. CDU (Cebu Doctors University) を決める学校一大きなイベントが開催されます。このコンテストでは、毎年異なるテーマが与えられ、参加者は全校の前で、そのテーマに沿って英語でのスピーチを行うことになっています。今年のテーマは「Eco-tourism¹」でした。このテーマは、私が留学を開始する前に大学を通じて携わってきた、「山梨の『水』資源を活かした活動(「ダイナミックやまなし総合計画」の「やまなし『水』ブランド戦略の推進」に関する事業)で得た体験と関連付けて考えられると確信し、参加することを決めました。

スピーチの作成にあたっては、幅広い視点から観光や環境問題について考える必要がありました。まず、現在地球上で起きている様々な問題について述べ、それらが私たちの生活や身近な地域にどのような影響を及ぼすのか、またどのようにして、この現状を観光客に知ってもらうのかなどについて焦点を当てました。具体例としては、先述したように山梨の「水」資源を活用した外国人向けの国際共同モニターツアーを行ってきたことを挙げ、聞いている人によりイメージしてもらいやすいようなスピーチを作成するように心がけました。

私自身、これまでに日本語でのスピーチは何度か経験したことがありましたが、英語でのスピーチは初めての経験であったため、このイベントは大きな挑戦となりました。コンテスト当日の約1ヶ月前から準備を開始し、その過程では多くの先生にスピーチの内容や英作文の添削をもらい、毎日夜遅くまで練習に励みました。結果として、私はコンテストでグランプリを受賞し、Ms. CDU の称号を得ることが出来ました。この時期は留学を開始してまだ間もない頃であり、自分の英語力に自信がなかった段階でのコンテストであったため、非常に困難な壁でした。しかし、たくさんの方々のサポートを受けながら、大勢の前で自分の意見を堂々と発表するという留学ならではのとても貴重な体験を味わうことが出来ました。この出来事は、私の留学の中でも最も大きな成果だといえます。

¹ 自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組み。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書



図 1 コンテストでのスピーチの様子



図 2 紙やペットボトルを再利用して作った衣装（テーマ：Eco-tourism）



図 3 グランプリを受賞した瞬間

2-2) 山村集落でのボランティア活動

このほか、山村集落に暮らす人々のもとへボランティア活動をしに訪れました。観光地を見れば、近年海外旅行において人気急上昇し世界的に有名なセブ島ですが、実際にその場で暮らす人々の生活状況は決して豊かとはいえないものでした。学校に通いたくても十分なお金が無く通えない子どもたち、両親がいない孤児、若くしてシングルマザーになった女性、それぞれが非常に難しい事情を抱えて暮らしていました。

私はこの様子を間近で見て、今の自分の生活がいかにありがたく、恵まれているのかを身を持って感じました。駆け寄ってくる子どもたちを見下ろすとき、ふと自分の着ている洋服が目に入りましたが、普通に好きな洋服を着ることが出来ているだけでも十分にありがたいことだと実感したのを覚えています。それと同時に、自分がいくら目の前の景色に心を痛めて「何かしてあげたい」と思っても、何もできない現実にはふがいなさを強く感じたことも鮮明に覚えています。改めて、本事業のような助けを借りて自分の夢を実現出来ることへの尊さに心から感謝しなければいけないと思いました。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書



図 4 ボランティア先で子どもたちと



図 5 ボランティア先で物資を寄付した様子

3. 予定されていたインターンシップ

新型コロナウイルスの影響により遂に実現することが出来ませんでした。本来行うはずであった 2 つのインターンシップを紹介したいと思います。

インターンシップ先①

- 場所 マクタン・セブ国際空港

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

- 予定されていた時期 4月6日～5月1日(4週間)
- 仕事内容
 - ・搭乗案内のアナウンス(日本人対応)
 - ・チェックインのアシスタント(日本人観光客とフィリピン人スタッフの通訳、パスポートの確認、荷物のタグ付け、航空券の発行など)
 - ・体に障害を持った方や病人の対応、その際に医師の通訳
 - ・搭乗者のゲート案内
- 意気込み

実際に空港でインターンをしていた友人の話によると、日本人観光客が非常に多いため、日本人インターン生は彼らとフィリピン人スタッフを通訳という形で繋ぐ重要な役割を担うことが出来るそうです。日々違うお客様が利用することで様々な対応が求められるため、臨機応変に動くことが出来るように事前準備が必要です。例えば、空港施設に関する知識や各エアライン業界の取り決めなどを把握しておかなければならず、またそれらを英語で説明する能力も必要になってきます。

インターンシップ先②

- 場所 バイ・ホテル
- 予定されていた時期 5月4日～5月29日(4週間)
- 仕事内容
 - ・チェックイン・アウトのアシスタント(レセプション)
 - ・ロビー・館内または周辺観光施設でのご案内
 - ・客室の清掃や管理サポート
 - ・レストラン等の配膳サービス
 - ・カフェでの接客
 - ・予約受付などの電話対応
- 意気込み

ホテルの利用客は日本人、韓国人、中国人など多国籍であるため、多種多様な顧客のニーズに応えた細かな対応が必須です。空港と比較して、幅広い業務が体験でき、将来活かせるような高い接客能力の習得が期待できます。空港と同じく事前調査を疎かにせず、丁寧かつ正確な案内をするためにフィリピン人スタッフと同レベルの理解をしている必要があります。

4. 今後への活用

これからは、まず速やかに「山梨県地域通訳案内士」の資格を取得する予定です。すでに取得している「国内旅程管理主任者資格」と合わせて、本格的に活用していきたいと考えています。

具体的には、山梨県の自然や歴史的文化財を盛り込んだツアーを計画し、実際に日本人の観光客はもちろんのこと、外国人の方々も案内するという視野に入れて考えています。先日、大学で所属するゼミから、全国旅行業協会が主催する「学生がつくる山梨県の着地型旅行プランコンテスト」に2つの『着地型旅行プラン』を応募しました。これは、地元

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

を誇りに感じている人たちが、地域の観光資源を素材とした旅行商品を企画するユニークなアイデアを募集したものです。どんなテーマでツアーを組むのか、実現可能な商品を生み出すにはどのような工夫が必要か、チラシの構成はどうすれば効果的かなど、ゼミ生で何度も試行錯誤しました。その結果、幸いなことに2つの旅行プランは最優秀賞と特別賞に選んでいただくことが出来ました。これで、準備は整ったと思います。現在は新型コロナウイルスの影響があり、外国人観光客どころか日本人観光客ですらまばらな状態であるため、すぐに実行することは難しいですが、いつか近い将来必ずこれらのツアーが行えればと願っています。今はその時のために、まだまだ私たちが出来ることを模索して、体制を整えていきたいと思っています。

留学先での経験と、大学のゼミを通じて関わらせていただいている様々な取り組みは、間違いなく私の人生の糧になっています。将来、どのような形であっても山梨県の観光に携われるような人材になりたいです。この度は、一生忘れられない素晴らしい経験をするきっかけを与えてくださり、本当にありがとうございました。今後の人生の中で、山梨県に対して恩返しができるように頑張っていきます。